

学長のコラム

保健医療系5大学による国際シンポジウムを終えて

去る10月8日（金）に "The 6th Allied Health Sciences International Symposium 2021" をオンラインで開催しました。一部の時間帯で通信障害がありましたが、予定したプログラムは全て終了することが出来、ホッとしています。統括責任者の山元総勝教授、国際交流委員会メンバー、事務局の安部さん並びに通信環境の調整に奔走していただいた山鹿講師に感謝致します。

本シンポジウムは、2011年に大邱保健大学の主催で、本学を含む4大学で開始された医学検査領域のミニ国際シンポジウムを発展的に解消し、2016年7月に看護およびリハビリテーション領域を加えた新たな保健科学シンポジウムとして同大学の主催で第1回が開催されました。翌年7月には本学が第2回的主催校となり、その後、2018年7月にフィリピンのセントロエスカラー大学主催で第3回、翌2019年11月にはタイのコンケン大学の主催で第4回が開催されました。第5回は2021年2月に大邱保健大学の主催でオンライン開催でした。この間、参加校に変遷があり、本学と大邱保健大学、コンケン大学、セントロエスカラー大学の4校に加え、第4回からフィリピンのファー・イースタン大学が正式参加し、現在の参加校は5校となっています。

本学では、一年半前に山元教授を国際担当学長特別補佐に任命して準備委員会を立ち上げ、国際交流委員会と連携しながら準備を進めてきました。COVID-19の状況を注視しながら準備を進めてきましたが、6月下旬頃から第5波に突入し急速に感染が拡大したため現地開催は困難と判断し、第5回の大邱と同様にオンライン開催を決定しました。

本シンポジウムでは、最大の関心事であるCOVID-19への対応を取り上げることとし、"Education and Research at Healthcare Universities in the New Era -Looking to the Post-COVID-19 World-"というメインテーマを掲げました。Keynote Speechには熊本大学・鹿児島大学ヒトレトロウイルス学共同

研究センター・センター長の松下修三教授をお迎えし、"Development of Vaccine and Neutralizing Antibodies to End COVID-19 Pandemic"というタイトルでご講演いただきました。COVID-19の発生から現在までの世界の状況をお話いただき、後半はご自身で開発中の新型コロナに対する中和抗体について語っていただきました。参加者の関心も高く、多くの質問があり有意義な質疑応答となりました。Plenary Sessionでは"Higher Education Initiatives in the COVID-19 Era"というテーマについて、川口教授の司会のもとで各大学の演者にそれぞれの大学における工夫を話していただき、大いに参考になりました。Keynote Speechは医学検査学科4年生に聴講の機会を設けましたが、web上でも120名程度の参加がありました。Plenary Sessionには最大210名におよぶweb参加があり、その後のConcurrent Sessionは3領域に分かれての開催でしたが、いずれも最大100名を超える参加があり、活発な討論が繰り広げられました。

COVID-19の影響でオンライン開催となりましたが、学問的討論とともに5大学間における国際交流も一定程度は出来たのではないかと思います。日本では新型コロナの状況が落ち着いてきましたが、次回のフィリピンのセントロエスカラー大学とファー・イースタン大学の共催による第7回シンポジウムでは是非、現地開催が実現することを期待したいと思います。



〈松下教授の基調講演風景〉

10月・11月・12月の主な行事予定

10/25(月)	インフルエンザ予防接種
10/28(木)	医学検査学科 臨地実習認定式
10/31(日)	キャンパス見学会
11/4(木)	インフルエンザ予防接種
11/6(土)	学部リハ特別選抜(社会人) ※合否発表: 12/1 助産別科推薦入試 ※合否発表: 11/12 大学院推薦選抜・社会人選抜(I期)入試 ※合否発表: 11/19
11/14(日)	井芹川領域周辺大清掃
11/20(土)	学部入試(学校推薦型選抜) [指定校][公募] ※合否発表: 12/1
11/22(月)	定期健康診断
11/24(水)	银杏学園理事会
12/4(土)	助産別科 一般入試、 ※合否発表: 12/10 認定看護師教育課程(脳卒中看護分野)・特定行為研修課程入試 ※合否発表 12/21
12/5(日)	チャレンジ熊本大! 一般選抜対策講座
12/12(日)	キャンパス見学会

速報 PT 収容定員増が文部科学省により認可されました!

リハビリテーション学科 理学療法学専攻の入学定員の変更(40名→60名)につきまして、10月22日に大学設置・学校法人審議会により「認可」とする旨の答申が出されました。(文責・企画・人事課)

9月度卒業式

9月22日(水)に学部卒業生2名の9月度卒業式を挙行し、竹屋学長より学位記が授与されました。卒業生一名ずつに挨拶をいただき、とても心温まる式となりました。



(挨拶をする卒業生(左)と式後、竹屋学長らと記念撮影する卒業生(右))
今後の活躍をお祈りいたします。(文責:総務課)

オープンキャンパス・キャンパス見学会を開催

今年度の夏期オープンキャンパスを 7/18、9/5、9/19 に開催しました。

新型コロナウイルス感染症対策として、規模を縮小し、人数制限やプログラム変更を行いながらの実施となりました。在学生の協力を得ることが叶わない日程もございましたが、各学科で工夫いただき無事終えることができました。ご協力に感謝いたします。

また、今回夏のオープンキャンパスに参加できなかった方を対象に、事務局を中心としたミニキャンパス見学会を開催しております。

何れのイベントも大学の雰囲気を感じていただく大事な機会ですので、今後ともご協力ご支援いただきますようどうぞよろしくお願いいた



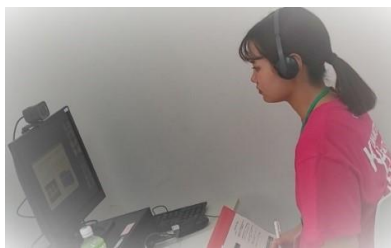
〈実習室で本学教員の説明を聞く高校生〉

します。(文責：入試・広報課)

日本ピア・サポート学会第 19 回研究大会

9月19日(日)日本ピア・サポート学会第19回研究大会が初めてオンラインで開催され、現地特別企画会「学生のための、はじめてのピア・サポート」に、全国の大学等でサポート活動を行っている学生の皆さん 26 名、そして本学のピア・サポーター3名(3年生2名、1年生1名)が参加しました。ピア・サポートの意味や歴史についての講義のあと、大学混合のグループに分かれて「オンラインサポートの提案」というテーマでワークが実施されました。遠隔での意見交換のむずかしさはあったようですが、他大学の様々な活動や柔軟な発想にとっても刺激を受けていました。

今回の経験を今後のピア・サポート活動へ活かすとともに、全国の活動を同じくする仲間との連携を



深めてほしいと願って 〈オンラインを通じ参加した学生〉
います。(文責：学生相談・修学サポートセンター)

動物慰霊祭

10月20日(水)に動物慰霊祭を執り行いました。

日頃、実習や研究で犠牲になっている実験動物の御霊に、大学を代表して竹屋学長、学生を代表して医学検査学科2年小村陽香さんが慰霊の詞を述べました。

また、木下理事長、竹屋学長、動物実験委員長の田中(聡)教授、学生の代表として医学検査学科2年堀田千夏さんの4名が代表で献花を行い、動物たちへ感謝の気持ちを込めて冥福を祈りました。(文責：総務課)

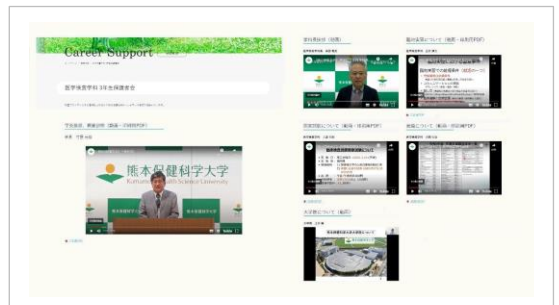


〈竹屋学長による慰霊の詞(左)と献花する木下理事長(右)〉

2-3 年次保護者会

9月から10月にかけて2年生・3年生を対象とした保護者会を開催いたしました(2年生 理学療法学専攻・言語聴覚学専攻、3年生 医学検査学科・生活機能療法学専攻)。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止によりオンデマンド形式による開催となりました。主な内容は、学長による大学概要や新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組み、各学科・専攻による学外実習、就職、国家試験に関する説明など、特別サイトを設けて閲覧できるよう配信いたしました。

対面実施は叶いませんでしたが、より多くの保護者の方に情報をご提供できたのではないかと思います。最近では感染者数が減少傾向となっています。このまま終息に向かい、次回はぜひ保護者の皆さまと直接お会いして活発な意見交換が出来ることを願っております。



(文責：就職・実習支援課) 〈オンデマンド配信掲載の様子〉

私の秘話ヒストリー

今回はリハビリテーション学科 理学療法学専攻の松見 遥香 教員に投稿していただきました。

私事ですが、今年の1月に入籍いたしました。

4月から同居生活が始まり、ある程度生活リズムにも慣れてきたところです。

今まで20年以上実家から離れたことがなく、家にも愛猫達と戯れ、膝の上から猫が離れてくれないことを理由に一步も動こうとしない私が、毎日朝晩の食事を用意し、洗濯物を干して出勤しています。両親は家事をしているか心配でよく電話してきます(本当は夢に出てくるくらい娘が恋しいからのようですが…)。自分自身、何もできないと思っていましたが、「やればできる」とはこういうことなのだなと感じました。しかしながら、好きなように過ごして良いと言ってくれる旦那さんに甘えて、最近では頻繁に実家の愛猫達に会いに行き、家事そっこのけで自由にさせていただいております。今だけかもしれませんが、寛容な旦那さんに感謝して、これからも心身ともに健康で穏やかに過ごせていければと思います。



〈実家の愛猫たち〉

第6回保健科学国際シンポジウム開催の裏事情

本シンポジウムの内容については竹屋元裕学長が詳細にご報告されていますので、ここでは開催までの裏事情をご報告いたします。

昨年4月、学長より本シンポジウム実行委員長を任命され、2020年1月16日に第1回準備委員会を開催し、その後月1回のペースで会を開催しました。2017年に本学で一度開催を経験していたのと準備期間が1年半あったのでじっくり検討できるだろうと思っていましたが、新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミックにより、ほとんどの学会・研修会が中止となり、最悪延期をも想定して急ピッチで準備を進めることになりました。今年の4月には準備委員会を国際交流委員会に吸収し、全学科を代表する教職員が参加する委員会としました。

本シンポジウムを開催するにあたり、全教職員一丸となって準備を進めたため、テーマの決定に際しても様々な意見が出てきて、テーマの決定に数か月を要しましたが、最終的に、シンポジウムのテーマもCOVID-19と関連のある研究・教育が選定されました。2021年2月の大邱保健大学担当の国際シンポジウムは渡航制限でハイブリッド開催となりました。本学のシンポジウムは10月8日開催と決定しましたが、COVID-19の収束がわからなかったため、6月まで、本学での現地開催かあるいはOnlineでの開催かの2本立てで準備を進めなければなりませんでした。Online開催決定後、海外の先生用に予約していたホテル客室約30室のキャンセルを行いました。一番心配していたのは、来熊を楽しみにしていた各大学の先生方にその旨連絡しなければならなかったことです。果たしてOnline開催で発表者が集まるかどうか不安で、各大学の代表者に発表人数の割り当てを行い、勧誘をお願いしました。9月6日を発表者の抄録締め切り、9月30日を原稿の提出締め切りとしていましたが、なかなか抄録・原稿が集まらず、再三、催促のメールを送りました。案内メールと合わせると総数約370通（受信180通、送信190通）に達しました。

9月30日に50周年記念館で開会式直前のトランペット演奏、開会式、基調講演のリハーサルを行い、マイクや映像などのテストを行いました。また、10月5日は、実際にZoomを用いて海外から発表者に参加して頂き、Plenary sessionと

Concurrent session（分科会）の本番さながらのリハーサルを行いました。

万全の体制で当日を迎え、特に、松下修三教授の基調講演では、全くのトラブルも生じず、順調な滑り出しでした。しかし、昼食後のPlenary sessionにおいて、通信シグナル不良の文字が画面に出始め、結局、4～5回通信遮断が生じ、座長の川口教授も演者の終了がわからない事態が発生しました。しかし、幸い、海外の先生方からの苦情はありませんでした。

本来、学会等においては、発表時間は厳密でなければなりません。分科会では、予定の倍以上の時間をかけて発表する演者もいて、最後は発表のみで質疑の時間を設けられない状況だったようです。

準備から当日本番まで、ヒヤヒヤすることを多々経験しましたが、終わってみると海外の先生方からはたくさんのお褒めの言葉を頂き、全体的には大盛会ではなかったかと思います。

業者に頼らず、水本准教授にはホームページへの掲載を、山鹿講師にはネットワーク環境の構築を、渡辺学部長をはじめ共通教育センターの先生方には英文校正や通訳を、また、国際交流委員会の先生方には本シンポジウムの企画から当日の業務まで多大なご協力をいただきました。また、教職員や医学検査学科4年生には本会にご出席いただき、誠にありがとうございました。皆さまに心より感謝申し上げます。



〈国際シンポジウム後、関係者による記念撮影の様子〉

（文責：国際交流委員長 山元 総勝）